

第四百三回 青葉会

令和元年十一月二十八日(木) 午後一時半〜四時半 文京区民センター会議室

〈選者〉

◎ 川口孤舟

〈出席者〉

今井紀久男 柿崎忠彦 川口孤舟 久米五郎太 小西弘子 在間千恵

佐藤忠重(新人) 豊田ゆたか 星田啓子

〈投句〉

伊賀山そらお 小早健介 朱牟田恵洲 土谷堂哉 古田昇 宮内規雄 山崎亜也

山田けい子 山内天牛 渡邊盛雄

〈紙上選句〉

赤田堅 安部眞希子 重枝孝岳 庄司龍平 高橋敏郎 早川允章 福島正明

村田くに子 山本三恵

《互選句》

七点

◎ 教皇の慈顔あまねく小春かな

紀久男(堅・孤・五・龍・敏・啓・く)

六点

◎ 新海苔をあぶり蕎麦屋の一人酒

けい子(堅・紀・忠・ゆ・允・く)

五点

◎ 凧に押されて巡る古書の町

そらお(眞・紀・孤・允・三)

◎ 干柿をゆつくり食ひて寡黙なり

全(眞・弘・ゆ・啓・く)

◎ 二の酉や風のするりと吹きかはる

弘子(忠・孤・五・重・啓)

その闇に沈めたき嘘夜の紅葉(もみじ)

啓子(眞・紀・孤・孝・正)

声潜めふたり雨音聴く夜長

全(紀・重・龍・敏・允)

四点

◎ 影となり光となりて小鳥来る

孤舟(忠・五・允・三)

◎ 先達の遺せし学舎冬紅葉(豊郷小学校)

堂哉(堅・紀・重・く)

◎ 紅葉濃き谷の瀬音に風渡る

ゆたか(重・孤・千・孝)

◎ 神頼みする神の留守知らずして

昇(忠・孤・千・允)

三点

◎ ミサを聴く平和公園初時雨

紀久男(堅・孤・敏)

◎ 教皇の時雨の祈り微動せず

忠彦(堅・孤・敏)

◎ 不明者が死者となる報初時雨

全(眞・紀・弘)

◎ 木枯と一緒に飛込む縄のれん

全(千・正・く)

◎ 急峻の嶺ひとつ統べ青鷹(もろがえり)

孤舟(五・孝・三)

◎ 山茶花の星瞬けば散りにけり

全(龍・孝・啓)

◎ 黒光る箱根階段や冬座敷

堂哉(孤・孝・ゆ)

◎ 銀漢をめざしてのぼる君なるや

ゆたか(紀・孤・五)

(◎…「銀漢を」↓「冬銀河」)(畏友の訃報に接して)

◎ カフェラテのミルクアートや冬ぬくし

昇(孤・千・重)

◎ 駅前にコンビニもなく冬の雨

亜也(眞・紀・正)

◎ 木曾覆ふ凍雲の中道の駅

盛雄(紀・忠・五)

◎ 次の世に待つ人多し冬銀河

全(紀・龍・敏)

◎ 大入りの声色好評熱燗飲(やる)

紀久男(堅・敏)

(落語カフェでの大滝落語会の打上げ)

◎ 秋惜しむ終(っひ)の棲家(すみか)に三十年

全(龍・く)

◎ また一軒年寄去る町冬兆す

忠彦(紀・弘)

◎ 欠席の予定者も来るあんこう鍋

全(眞・三)

◎ 七五三晴着を脱ぎて腕白に

孤舟(千・ゆ)

◎ 冬茜壁のまだある東西

五郎太(紀・弘)

◎ 年流るユニセフへ寄付三十年

健介(紀・正)

◎ 魚沼の新米届きまぎ握る

千恵(紀・龍)

◎ 美術展ガラスケースにおでこ跡

全(正・啓)

◎ 参道の小暗き辺り花八手

恵洲(孝・允)

◎ 杖曳きて殿(しんがり)に躑(こ)く紅葉狩

全(紀・五)

一点

川水に浸かりて里の紅葉燃ゆ  
ひよ鳴くよ灰色の首長くして  
手締め受け艶めく女(ひと)や西の市  
内浦の滯標(みおつくし)より冬に入る  
澄みわたる東の空に十六夜の月  
晴れわたる原(はら)にコスモスあざやかに  
烏帽子着けきりりと舞ふや小六月  
(娘道成寺)

ゆたか(紀・千)  
規雄(紀・弘)  
けい子(紀・千)  
孤舟(啓)  
忠重(紀)  
全(紀)  
五郎太(紀)

この地でもブラックフライデイ落葉踏む  
松島に松無き小島鳥渡る

全(紀)  
弘子(忠)

ふんころがしの才も無き身や神無月  
牡蠣喰(くら)ひ人も食ひをる大統領

全(紀)  
健介(紀)

古代偲ぶ螺鈿の技や秋澄めり  
川溢れし土手にちらほら花芒

千恵(三)  
ゆたか(正)

小(こ)さくかなりぬ椎の実拾ふ母の背中  
シヤリシヤリと踏むもみぢ葉や子等笑ふ

啓子(ゆ)  
全(重)

ドアボタン押して下り立つ冬の駅  
病えて十月すつかり棒にふる

全(三)  
天牛(紀)

アメリカの缺で枯枝切り刻む  
着ぶくれて今日は外来診療日

全(三)  
全(紀)

●次回青葉会

十二月九日(月) 恒例年忘れ句会

新宿末廣亭・昼席見物 十二時～十六時半 木戸銭2,700円

「虎連坊」忘年句会 十七時半～二十時 会費 5,170円

正月五日(日) 吉例初芝居総見

浅草公会堂「新春花形歌舞伎」第二部 十五時～十八時 二等席6千円

新年会 どぜう飯田屋 十八時半～二十時 会費7千円

一月二十三日(木) 初句会 午後一時半～四時半 文京区シビックセンター5階B室

令和元年十二月九日

以上 文責 紀久男



令和元年十一月 青葉会報

一、今回は新人の佐藤忠重さん(小生と同じS38入社。情報通信分野)始め9名出席。投句は天牛さんから10名。今回も五郎太さんが司会され、御覧のようにタイ旅行中のそらおさんが高得点、弘子さん、啓子さん、けい子さんが好成績でした。

きさらぎ句会の盛雄さん、健介さんからの『400回祝』の「白雪」純米大吟醸と「伊丹諸白」(小西酒造) 奈良漬、啓子さんの「米鶴」の純米「盗み吟醸」と金太郎飴。千恵さんの純吟「蓬萊」。小生持参の庄司さんから頂いた大阪土産(觀光堂の海苔巻煎餅)、河東節師匠(人間国宝)からのオランジェ(麻布のジョン・カナヤ)、それに合わせたスコッチ「TEACHERS」とおかき等々、盛り沢山。堪能しました。